

川崎市内沖積層からの埋没樹化石産出報告(2)

増淵和夫*

正岡・増淵(1984)は、川崎市多摩区栗谷の沖積層からの埋没樹化石(生田材1、2)の産出を報告した。その後、鶴見川、多摩川流域の沖積層から埋没樹化石の産出があった。これら埋没樹化石は、市内の沖積層の地質構造や堆積環境を解明する上で、重要と思われるので、正岡・増淵(1984)を、「川崎市内沖積層からの埋没樹化石産出報告(1)」と位置づけ、生田材の年代測定結果とともに、報告する。

1. 生田材

産出地点 川崎市多摩区栗谷

樹種 生田材№1 カン類 生田材№2 カヤ 鑑定 東京大学農学部森林植物教室
能代修一氏

年代 生田材№1 B・P,年代1100±100(A.D.840)
生田材№2 B・P,年代1110±(100)(A.D.850)

¹⁴C年代測定 学習院大学木越邦彦研究室

2. 麻生環境センター

1985年に、川崎市麻生区上麻生の麻生環境センター建設現場より、最長10mのものを含む10数本の埋没樹化石が産出した。産出地層は、鶴見川旧河床の沖積層である。これら埋没樹化石については、調査団が結成され、本年3月には報告されるので、詳細はその報告にゆずる。

3. 高津区溝の口

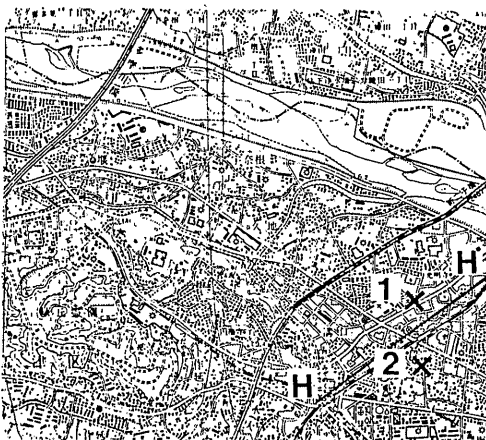


図1. 埋没樹化石産出地点位置図
(旧土地理院発行2万5千分の1
溝口 使用)
※川崎市青少年科学館

1986年に、高津区溝の口周辺の2地点より、埋没樹化石が産出した。

高津区溝の口の高津図書館改築工事現場(地点1)より産出した埋没樹化石を、高津材1、高津区二子の

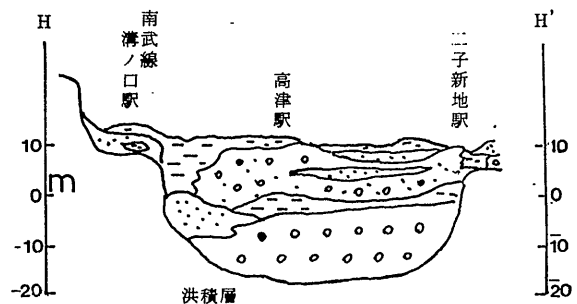


図2. 川崎市高津区溝ノ口一、二子新地、地質断面図(川崎市：1981 使用)

第三井上ビル新築工事現場（地点2）より産出した埋没樹化石を高津材2とする。

地点1、2の地質は、ボーリング柱状図（第3図）に示すように、上部より、植物片まじりの泥層、大礫、中礫の多い砂礫層、植物片の混入する泥層、中粒砂層、最下部に礫層（大礫・中礫）とからなっており、川崎市（1981）（第2図参照）によれば、全て沖積層である。

高津材1は、海拔高度6.2～5.7mの砂礫層より産出し、地表上に取り出されたものは3本ある（但、途中で切断されたために、実際には4本となっている）。大きさは、最大直径50cm、全長60.0cm、同直径35cm、全長12.0cm、同直径35cm、全長18.0cm、同直径20cm、全長19.0cmであり、炭化の程度は中程度、縦にヒビ割れが目立つ。

高津材2は、海拔高度6.3～5.3mの砂礫層より産出した。大きさは、最大直径70cm、全長58.0cmで内部まで炭化が進んでいる。

高津材1、2の産出層準は、沖積層の「中部」砂礫層で、ほぼ同一層準のものと思われるが、正確には、¹⁴C年代測定で明らかになると思われる。樹種鑑定とともに、年代測定を行う必要があると思われる。

樹種鑑定、年代測定用試料は、青少年科学館に保存してある。

引用文献

正岡栄治・増淵和夫（1984）五反田川流域の埋没樹化石について 川崎市青少年科学館年報 28P

川崎市（1981）川崎市環境地質図報告書

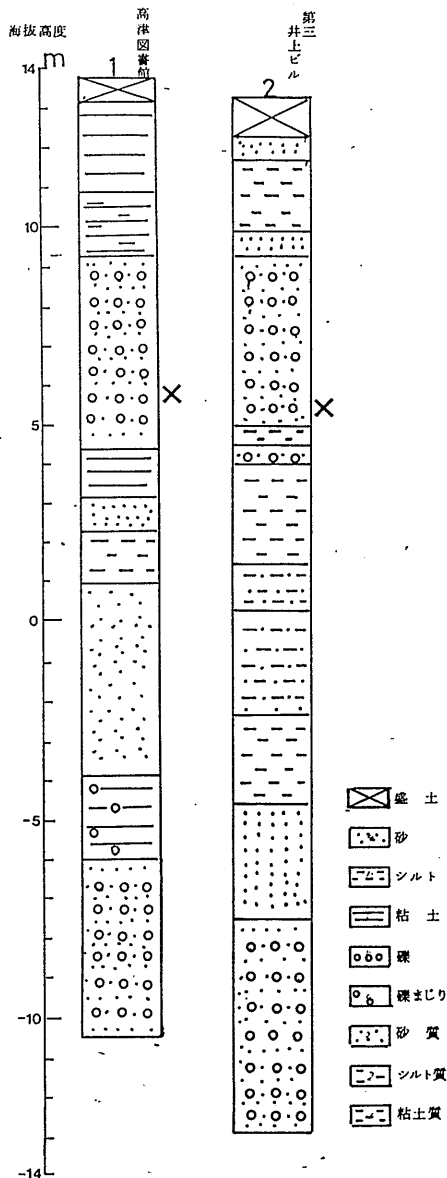


図3 埋没樹化石産出地点、ボーリング柱状図
（×印は化石産出層準）